



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2020年1月号

総合学科って知っていますか？

みなさんは、高校に普通科、工業科、農業科、商業科以外に、総合学科っていつがあるのをご存知でしょうか？

先日、総合学科の講倫館高校の説明会に参加してとても興味深い内容だったので、みなさんと情報を共有したいと思います。

糸島エリアの高校は第6学区というところに属していて、その中で高校を選択することになります。

第6学区にはいろいろな高校があり、修猷館や糸島高校をはじめとする普通科だけではなく、福岡工業や糸島農業があります。この辺は皆さんご存知の方が多いと思いますが、その中に講倫館高校という総合学科の高校があります。

講倫館高校を知らない方も西福岡高等学校を知っている方はいらっしゃると思いますが、以前は商業科のある高校でした。それが2005年に総合学科に改組され福岡講倫館高校に改称されたのです。

講倫館高校との接点は、以前講倫館高校から西南大に進学した大学生がうちで講師をしていたことに始まります。その講師のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力はとても高く、2年で主任を務めたのは彼が最初で最後です。就職も旧帝大や早慶へ争うような一企業に就職し活躍しています。

また、4年ほど前に講倫館高校の生徒が入塾して

きたのですが、自分をしっかりと持っている生徒で法政大学に合格しました。この二人の印象が強かったのもいいイメージを持っていたのですが、学習内容を聞いて納得がいきました。

講倫館高校のホームページによれば、総合学科は、普通科と専門学科の両方の長所を生かした新しい学科です。普通科と専門学科の学習内容の中から、生徒は進路希望に応じて学習が出来ます。また、他の学科にはない、新しい学習内容(学校設定科目)などがあります。そして、卒業後の進路は、生徒個人の志望に応じて、進学・就職どちらにも対応が可能です。

具体的にはどのようなかというと、普通科の高校にある科目だけでなく、異文化理解、アジア研究、フランス語、メディア論、ビジネス情報、財務会計、インターシップ、ビジネスマナー、起業論、フードデザイン、ファッションデザイン、ネットワークシステム、アルゴリズムとプログラミング、情報テクノロジー、情報デザイン、データベース等あらゆることが学べるのです。ここに上げたものはまだまだほんの一部で120以上の学科があるのです。

朝と夕方のホームルームはクラスで行うのですが、それ以外はみんなそれぞれ自分が受講するクラスに分かれるので、常に集団で行動する普通の高校

とは、そこが一番異なるのではないかと考えています。すべてを「自分で決める」ことが成長につながるのではないかと思っています。

パンフレットにはあらゆる進路選択を自由に考えていく中で「堂々と自分の夢について語れる」「よくなる」と書いてあります。また、「体験的」「探究的」な学習を通してプレゼンテーション能力を育てているとも書いてあります。

蒼風祭という学習成果発表会が年に1回あり、そこで身につけてきたコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を発揮する場が与えられているのです。

プレゼンテーションをする方も当然スキルアップにつながると思うのですが、そのプレゼンテーションを聞く方も勉強になるのでとてもいいなあと感じています。学校では学力を高めることも大切ですが、自分の可能性を広げるためにいろいろな学びや経験を積める環境も重要です。そのような意味では総合学科はとても魅力的なところがあると思います。

慶応大学が企業に人気があるのも、プレゼンテーションをいち早く授業に取り入れたことで、プレゼンテーション能力の高い学生が多いことが挙げられます。高校で全員にプレゼンテーションする機会があるのは、とても素晴らしいことではないかと思うのです。ホームページに「新しい高校教育の最先端フロントティアをいく学科です」とあるように新しい道を切り開いていって欲しいと思います。

やる気相談室

公文

公文さんの戦略が変わってきたそうです

そろばん塾ピコの本部より定期的に塾業界の情報が来ているのですが、今回はとても興味深い記事だったのでシェアしたいと思います。

公文さんと言えばスモールステップで学ばせる先駆者として創業してか

ら今日に至るまで、世界のあちこちに公文式学習を導入している世界企業です。

その公文さんの戦略に変化が出てきたことがその記事の内容でした。

公文さんと言えば算数です。計算問題を中心に無学年方式で高校数学に直結していくシステムで、瞬く間に日本中に教室を展開してきました。ある意味公文の成長とともにそろばんの市場が縮小してきたと言ってもいいのではないかとような変化でした。

公文さんはそれから国語や英語を次々と導入していったって、どんどん塾業界のガリバーになっていったのです。

これからのピコ本部の分析なのですが、東京の世田谷にそろばん塾ピコの経営をなさっている井上先生という方がいらっしゃいます。世田谷というと中学受験の大激戦地でも教育に対する意識の高い方が集まっている地域です。その地域で井上先生はそろばんの生徒を500名以上育成なさっています。

そこで異変が起こっているらしいのです。以前は、「算数は公文」というのが常識だったのが、最近では算数の力をつけたい保護者さんはピコに連れてくるようになってきました。

世田谷では算数ならピコというくらい中学受験を目指すお子様がこぞって井上先生の教室に押し寄せてきているそうです。

実際に私の大学時代の友人も受験に入る前にそろばんを習わせると言っていました。ちなみに日能研という中学受験専門の塾も小4までにそろばん2級を取得することを勧めているようです。

このように算数に関してはそろばんが良いという状況がじわじわと広がってきているようなのです。そしてここから重要なのですが、公文さんは最近「キッズピコ」に算数を使わず、国語や英語を使っているそうです。「算数の公文」から「国語・英語の公文」への変化です。

そして、世田谷では習い事市場の中で、「算数はピコ」「国語は公文」というイメージが確立されてきているそうです。そろばん塾を経営している者としては、とても心強い情報です。本部からの情報に負けないように実績を一つ一つ積み重ね、糸島でも「算数はピコ」と言われるように精進したいと思います。

速聴読も国語力のアップに貢献してきているので、そろばんと速聴読が実力アップの基盤になるよう頑張っていきたいです。糸島では「算数はピコ」「国語は速聴読」と言われるようになってほしいです。

鈴木るりか

さよなら田中さん

書籍紹介

私は去年から母が読んだ本は一度目を通そうと母が読んだ本は必ず持ち帰るようにしています。親不孝ばかりしていて親の気持ちもあんまり考えなかった罪滅ぼしの気持ちから始めたことでした。この本はその中の1冊です。著者の鈴木さんは2003年生まれの高校1年生です。小学4年生で小学館「12歳の文学賞」の景品に引かれ応募したところ、1024通あった応募作品の中から大賞に選ばれたのです。その後も2014年と2015年に続けて同賞に応募し、3年連続で大賞に選ばれました。そして、14歳の誕生日となる2017年10月17日にこの本を出版して中学2年生で小説家としてデビューしたのです。5つの短編小説からなりとても読みやすいので、是非小中学生にも読んで欲しいと思います。主人公は母子家庭の花実ちゃん、花実ちゃんと子供のために肉体労働で働きまくるガテン系のおかあさんを中心とした、人間模様をコミカルにそしてなんとも切なく書き上げた本なのです。本自体も面白くて、感動で涙する部分も多いのですが、この本の著者が、4年生の時に書いたものがベースになっていると思って読むと、さらにいろいろな気付きがあると思います。昨年、3作目の『太陽はひとりぼっち』も発売されています。是非読んでみてください。

